

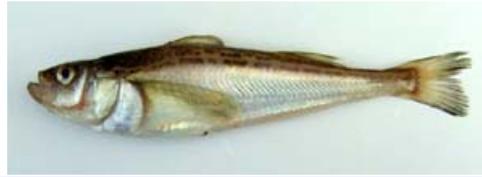
# 平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

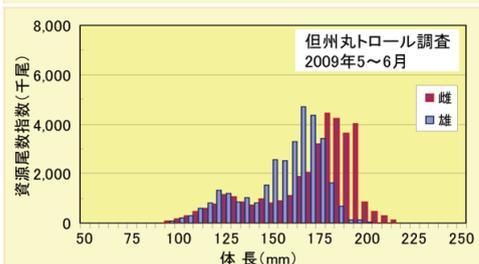
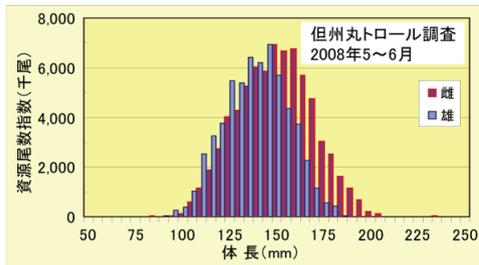
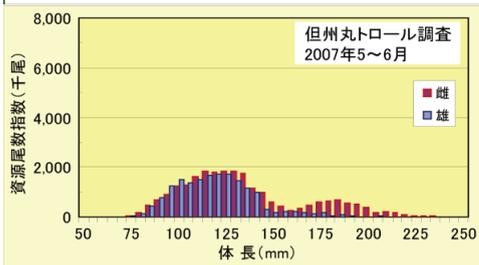
系群名 日本海西部系群

担当水研 日本海区水産研究所



## 生物学的特性

寿命: 5歳(年齢は、ふ化した年を基準に暦年で示す)  
 成熟開始年齢: 雄:1歳(100%)、雌:2歳(100%)  
 産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、西部にはまとまった産卵場がない  
 索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない  
 食性: 端脚類、橈脚類、オキアミ類、イカ類、魚類  
 捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

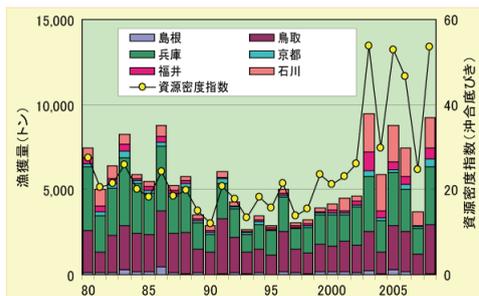
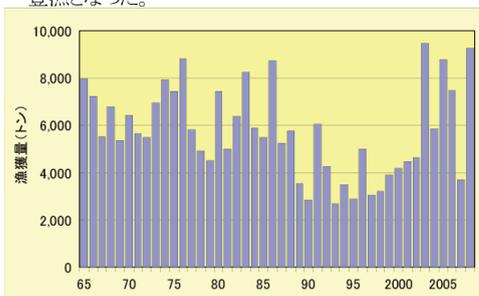


## 漁業の特徴

兵庫県と鳥取県では沖合底びき網、京都府以北及び島根県では小型底びき網によって主に漁獲され、例年兵庫県と鳥取県の水揚げが多い。漁獲の中心は休漁期前の4～5月、休漁明けの9月である。11～1月の漁獲量は少ない。

## 漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、過去50年間の、5,000トン前後の水準を維持してきた。1970年代後半に韓国及び日本海北部において漁獲量が激減したが、この海域では減少しなかった。1990年代半ばから漁獲量は漸増傾向に転じている。2007年は前年比50%の3,706トンであったが、2008年には、2歳魚(2006年級)に支えられ9,258トンと豊漁となった。



## 資源評価法

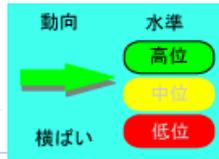
漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づいて1980年以降の資源密度指数\*の推移を調べた。加えて、鳥取県における漁獲物の体長組成や毎年5～6月に実施される但州丸トロール調査の結果から、近年の

漁獲物の年齢構成、今後の加入状況を考察した。

\*資源密度指数:10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除したもの。

#### 資源状態

西部海域全域で見ると、2003年に過去50年間で最大の漁獲量、過去25年間で最も高い資源密度指数を記録したが、これは極めて豊度の高い2001年級によるものと考えられる。2004年にはこれらの値が急落したものの、2005年には再び豊度の高い2003年級により資源密度指数が高い値となった。2007年には漁獲が低迷したが、2008年には2006年級に支えられ西部海域全域で豊漁となった。このように、2003年以降、激しい増減を伴いつつも、平均的には高い値を維持しており、本系群の資源水準は依然高位にあり、動向は横ばいと判断された。



#### 管理方策

2007年の漁獲量は低迷したが、2008年は豊度の高い2006年級に支えられ好調であった。このように大きな年変動を伴いつつも、2003年以降数年ごとに卓越年級が出現して高水準を維持している。本系群は、漁獲の主体が1歳もしくは2歳で、年級の入替わりが速い。2010年の主体となる年級が卓越する兆しは現在のところみられない。資源状態が悪化する可能性もあり、漁獲圧を高めず、動向を見守るべきである。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	7,300トン	1.0Cave4-yr	—	—
ABCtarget	5,800トン	0.8・1.0Cave4-yr	—	—

- 100トン未満を四捨五入

#### 資源評価のまとめ

- 2007年の漁獲は低迷したが、一転して2008年は豊度が高かった2歳魚(2006年級)に支えられ豊漁となった
- 西部系群は引き続き高い水準にあり、横ばいと判断される
- 2008年級は少なからず分布するが卓越の兆しはなく、2009年級の豊度は不明である
- 資源状態が悪化しないよう、動向に注意する必要がある

#### 管理方策のまとめ

- 高位水準ではあるが、資源状態は悪化する可能性もあり、漁獲圧を高めず、動向を見守る
- 2007年級の豊度が低く、小型魚への漁獲圧が高まることが危惧される。網目拡大等の措置を継続し、小型魚保護に努めることが肝要

平成21年10月26日更新

資源評価は毎年更新されます。